

第33号

寿だより

根郷公民館寿大学

2013-7月発行



ふるさと(その二)

六班 福久 伍市

私のふるさは東京大森区(現大田区)目蒲線(現目黒線)沼部駅近くでした。多摩川が流れ、丸子橋と言う大きな橋の向こうには富士山がいつもくつきりと雄大な姿を見せてくれていました。

戦時中は日の丸を付けた戦闘機や爆撃機が、編隊で多摩川上空を西に向かって飛んでいく姿に手を振って叫んだり、戦後は進駐軍がトラックでゴミを捨てに来て、皆でゴミをあさり、ガムやチョコレートの欠片なんか見つけると大喜びではしゃいだ事、ある時大雨で多摩川が溢れ、水が土手まで来てしまい「まるた」と言う魚が手づかみで何匹も捕まえたのを覚えています。

毎日腹を空かしているの、「まるた」は大変なご馳走でした。国民学校二年生になって給食があり、当時給食担当者だった母が、息子の私だけご飯を山盛りによそってくれて、嬉しいやら恥ずかしいやら、今でも

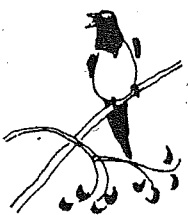
忘れる事が出来ません。

その頃銭湯に行くのが最高の楽しみでした。でも帰りに履いてきた下駄を盗まれ、兄におんぶされて帰ってきたのを覚えています。何しろ石鹸でも手ぬぐいでも、何でも置いとけば盗まれてしまうので、石鹸、手ぬぐい、剃刀など、桶に入れて頭に結わえて湯船に浸かっている人もいました。でも服は何故か盗まれません「しらみ」がたかっているからか？あるとき、学校でDDTと言う白い粉を背中から入れてもらいました。そしたら、タマゴから全部退治してくれました。でも他から移って又痒くなり暫くは「しらみ」とは縁が切れませんでした。

ある時兄が、お前は多摩川の土手で、むしろに包まれて泣いていたので、可愛そうだから拾ってきてあげたんだと真剣な顔で言ったので本気にしてしまいました。

「しらみ」がたかり腹を空かしているも、富士山が見える多摩川で遊んだ事が、何時までも懐かしく忘れ

る事が出来ません。(ここが私の第一のふるさとです。)



歴博ひとくちガイド

プロローグ(第一展示室入口の手前トンネル部分)について

六班 座間 功

プロローグがリニューアルされています。以前のプロローグは日本列島の周囲が海に囲まれ太平洋の荒波が打ち寄せる大海原のイメージ画面となっていました。

現在のプロローグはタイムトンネル方式となっています。入ってすぐの壁面は大鏡となっていて、ここから現在のご自分を鏡で見た後、現代から順に時間をさかのぼっていくという趣向になっています。すぐ右側に映っているのは昭和・大正・明治及び民俗(六、五、四展示室)そして進むにつれて、江戸・室町・平安及

び縄文等(三、二、一展示室)を象徴する資料等のイメージとなっています。

突きあたりの壁は、日本列島を中心にした衛星写真の巨大画像です。

今から約二万五千年前の旧石器時代の地球の様子で日本列島の海面が現在よりも百二十メートルも低く、日本列島が今よりもずっと大きかった時代の地形を表しています。

そして、このタイムトンネルを通っていよいよ歴史ロマン漂う展示室に入っていきます。

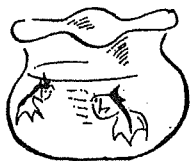


寿大学グループ討議(一月十八日)

「私のいきがい」

ふだん思っている事、表現したい事等、各自が発表する機会を持ち、班毎に「まどめ」として提出されたものを掲載しました。

尚班名は二十四年度のものです。



【一・三班】

・寿大学へ来て皆と顔を合わせ楽しく会話する。

・生きている事こそ生きがい。

・趣味(大正琴)を楽しんで好きな航空機を見る。

・映画、旅行を楽しむ、自分の思っている事を投稿する。

・趣味を持つ。

・健康に留意して食事を作る傍ら散歩をする。

・スポーツ、ジム、ヨガで体力作り

・畑で野菜づくりを楽しむ。

・時間を無駄にせず有効に使って講演を聞く。

・寿大学で寿だよりの編集に参加している。

・ボケ防止に頭を使う様にする。

・食事はなるべく栄養を考えて手作りする。

【二班】

・寿大学の社会見学会に参加する。
・散歩をする。

グループ二班の結論として

自分自身が生きている喜びを、人にお世話できる満足感・達成感、そして心のやすらぎが感じられる時が幸せである。その為に行って事を皆さんの発言としてまとめてみた。

・常に新しい知識を身に着ける様にしている。

・人の為に社会の為に役立てたいと努力している。

・人に迷惑をかけぬ様にしている。

・健康づくりに努め、家庭菜園を楽しんでいる。

・寿大学に参加して皆で楽しく話している。

・一日一笑を心掛けている。

・自分の知っている事を子供達へ伝えて行きたい。

・一つクリアーすると次へ進みたく

なり活力が出てくる。

【四・五班】

・元気で楽しく生きる。

- ・健康第一、今が幸せであること。
- ・一日一笑を目標に生きる、笑う生活がしたい。
- ・生きる目標を立てる事、それには先ず歩く事。
- ・人の役に立てたらと思う、目に見えない事でも良いから。
- ・健康に感謝する気持ちを忘れない
- ・身内の世話を中心に生きている。
- ・歩くことで生きがいを感じている
- ・老人会の会合が楽しみ。
- ・カラオケ、おどり等を楽しむ。
- ・家族の面倒を見る事が楽しい、頑張れる事になる。



【六班】
男性四名、女性五名での班討議で、色々な意見やお話があり、お互い感動させられたり応援まじりの声が上がったりと、時間が足りない位有意義な話し合いの場となりました。

自分の好きな事をする。例えば家族あるいは友人との旅行、収穫を待ちわびながら家庭菜園を楽しむ、スポーツや踊りで汗を流しながら仲間と切磋琢磨しながら自分を高めて行く。成果を披露すべく大会等多勢の人の交流から元気を貰っている気がします。又ボランティア活動を通じて多くの繋がりが出来、その事が社会貢献にも結びついて行くとしたら素晴らしい事だと思いました。

自分と家族・あるいは知人・自己と社会の関係において夢中になれるものに没頭しながら生きている実感を持ち続ける事、これが「生きがい」になるのかなと思いました。

今やつてる事

- ・健康体操・家庭菜園・スポーツ・踊り・語学の勉強・ボランティア活動等でした。

【七班】
「私の生きがい」についての話し合いでしたが「生きがい」と言いより少し外れ、趣味の話、日々の生活の楽しみ等の話で盛り上がり時間切

れのような形で終わりました。

内容はまず旅の話が一番多かったです。旅の形や楽しみ方は夫々で海外旅行、温泉旅行、バスや車での旅、そして一人旅等です。楽しみ方は美術館や博物館めぐり、名所旧跡めぐり、ちよつと変わって工場見学、本場に各人様々でした。

次にカラオケ、週に二回の集まりを楽しみにしている方、自分のカラオケ機で楽しみ、そして色々な集まりに必ずカラオケを入れて皆で楽しんでたり様々です。

次に家庭菜園で作る、大変さもあがるが収穫の楽しみ、それを食する喜びで頑張っている方々、地域の人達との付き合いを大切にしたり、交流を深めたりしている方、また野草観察、バードウォッチング、ボランティア活動等で、充実した日々を過ごしている方の話などもありました。

そして健康でいること。その日その日を元気で生きて行く事など、皆さんがそれぞれの「生きがい」に繋がっていく様な盛りたくさんの話があった。

出来ました。最後にエンジョイシニアシニアをエンジョイしているよ」と笑顔で話をして下さる方がいました。今回の話し合いにはそんな方が多いように思われました。

【八班】
・体調を悪くした身内の面倒を見ている。
・健康第一に生きている。
・人の道にはずれない様に人を大事にグループと共に生きる。
・色よい水、きれいな水、人に迷惑を掛けない。
・生涯学習、学習の為にグループに入っている。

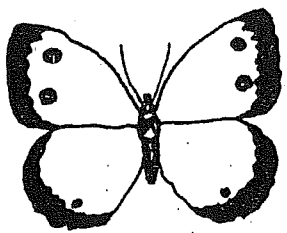
・精神的に体をこじらせ、寿大学に来られなかったが今日初めて来られた。健康で生きたい。
・フィットネス、スポーツ、カラオケ、健康体操、コンニャク作り、デモストレーション発表、イモ調理、人に拍手をもらう様に行動する。
・家にこもらず外に出てゆく。
・家でテレビを見て一日じっとしていない。

- ・家で人形を造る、少女の様に生きたい。
- ・茶道をやっているが総合芸術、いい友達も出来る。

- ・新規オープンのお店に出掛ける、大勢の人の熱気にウォーと言う様な力強さを感じ自分に取り入れる、今迄ロイヤルホームセンター、ケーズデロキ、カインズホーム、ベイシア、トライヤル等、昨日ナフコ四街道店オープンに行った、明日又日替わりオープン記念の高枝切鋏をゲットする。

皆さんが健康第一、お仲間と良いコミュニケーションを取りながら、清く正しく色々な接触行動をされている様子が伺える。

“人は生きる為に生き甲斐を見つけ、もがき、苦しみ、笑い、泣き、生きてゆく”



【九班】
・私の生きがいを探している。
・独居老人であり、これと言った生きがいはないが音楽を楽しんでいる。
・好きな事やつて過(こ)している(クラシックに癒される)
・ボランティアも生きがいの一つ、麻雀が面白い、料理等を覚えたり身体を動かしている。
・一人暮らしで悠々自適、グラウンドゴルフ、ボランティア(ゴミ拾い)をしている。
・平々凡々、ゴルフ練習場でボール拾いのアルバイトをしている。
・ラジオ体操を毎日やっている、フラダンスをしている。
・仕事中心に生活をしてきた、生きがいを探しているボランティア活動をしてみたい。
・ミレニアムセンターで他人が喜んでくれることをする事を、生きがいと思っている。
・スポーツボランティア、歴史ガイド、その他のボランティアをしている事が生きがいと思っている。

・会社人間であった、細々とした事は他人に任せていた、人が喜んでるのが嬉しい、ボランティアをしている。

【十班】
各自に「生きがい」について発表してもらい、質問などがあつたら答えてもらい、全員の「生きがい」について深め合った。
シニアプラン開発機構によると「生きがいとは」六四歳までは・生きる喜びや満足感・生活の活力や張り合い。

六五歳以上の男性は・他人や社会に役立つ。女性は・心の安らぎや気晴らし、一般的には・生きる喜び・生きる張り合い。
・頭を鍛える、色々な人と対話をする市民カレッジに参加、地域に役立つ、スクールガードパトロール、募金活動、健康、ウォーキング、ラジオ体操、自転車運動。

・植木の手入れ、友達との飲み会。
・家族の為の食事の支度、友達との外出。

・家事一切、3B体操(月二回)出掛ける様にしている。
・病院通いをしているが息子達に迷惑を掛けない様にしている、人の話を聞くのを楽しみにしている。

・規則正しい生活、食事にも気を付けている。自分の好きな事、もの作り、作ったものをフリーマーケットに出す、ウォーキング。
・腰を痛めているが歩く様にしている、食事の支度。
・家族の健康管理、娘たちのサポート、仲間との運動。

・孫の世話、孫の事を川柳に詠んで投稿、ウォーキング、ラジオ体操。
・夫が入院しているので看病に全力今は自分の事は出来ない。

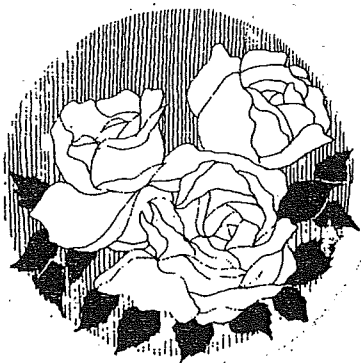
・「充実した一日」を目標に曜日ごとに何をやるかを考えてカレンダーに予定を入れる。男の料理教室、自治会のパトロール、メール便の配布、友達との食事。

【編集後の感想】
表題の「いきがい」が今やつている事、やりたい事、に繋がりに、健康

目的で身体を動かしたり趣味やボランティアをやっている、と言ふ発言が多く、一生懸命楽しんで生きようという姿勢がみられた。

その意味で、良い企画であったと思います。人それぞれがこれからも身体の許す限り、生涯学習活動に参加して頂ければ幸いです。

尚提出しており、当日参加の皆さんのご発言を記載致しましたが、紙面の都合もあり進行・記録・発表者の氏名を割愛させて頂きました。文章の簡素化、句読点の修正をご了承下さい。
(編集委員・S)



「高野山を旅して」

十班 吉野強二郎

春、三月末機会があつて関西に出掛けた、ついでに行こうと思つていた「高野山」に旅してみた、会合は午後過ぎに終わったので大阪の難波から高野山行き「特急」に乗り高野山に向かった。

途中の風景は桜が満開で遠くには生駒の山らしい峰が連なっている。大阪は一年ほど住んだ事がある阪神競馬場近くのマンションで有馬の方面は行ったが、高野山は始めて、また今回は「宿坊」に宿泊、始めての経験でした。しかし、宿坊とホテルとの違いは、朝にお勤めが有り、食事が「精進料理」の違いぐらゐで、般若湯はじめビールも代金を払えば飲み放題です。

一の橋から奥の院まで歩きながら昔の人はこんな不便なところに何故、大きな寺、墓を建てたのか？あの大きな墓石は何処から運んだのか？遠く時代を超えての音が聞こえて来そうな雰囲気でした。

自分史連載を終えて

九班 斎藤たかし

・序文

根郷公民館二階フロアの書籍棚に寿だより編集の前身「さくら根郷自分史の会」の文集が陳列されている。又、寿だより第一号から束ねたファイルも一階に、閲覧用として置かせて頂いてある。私の仮にも上手とは言えない作文を、恥を承知で名を連ねさせて頂いているが、「高野山」だければ幸いです。

そんな折、秋田県の日本海沿岸で育ち懐かしい思いを胸に旅をした記録を、中央公民館発行の「ななかま」に投稿した。「ななかま」も読者と共に投稿者が多いため、掲載される時期が現在のところ不明であり、寿だより用に推敲してあることを紹介する。

・「ななかま」について

昨年十月、秋田新幹線「こまち」にて秋田駅下車、藩制時代二十一万石の佐竹藩で栄えた市内の雰囲気味わった後、JR羽越本線を南下して隣県山形との県境に位置する

「寿・コラム」

・大分昔の話に戻るが「宇宙戦争」というSF映画があつた。火星人の到来の想像である。その後内容が変わるが「未知との遭遇」も、人は皆想像力が逞しい。

・寿だより前号を発行した頃（今年二月）ロシアに隕石が落下、莫大な被害である。膨大な宇宙は正体不明の「暗黒物質」が大半を占めているが、太陽系の中でも彗星や隕石が、宇宙の法則（重力・引力等）により飛んでいて（稀にはあるが）地球も標的の一つになっている。

・私たちが生きている間は何の心配もない、と悠長なことを言っている場合ではない。人類は見方によっては宇宙規模から言つて、地球を破壊に導くごく小さなコキブリかダニのような生き物、と言つても過言ではない。

・宇宙旅行を計画したり、様々なことを開発して楽しんでいる人間にとつて前記の言葉は適当でないかも知れない。しかし、地球に住めなくな

「にかほ市」の土を踏んだ。小学三年生から高校卒業迄生活した土地である。南に聳える鳥海山の裾野に連なる仁賀保高原には、風力発電の羽根が海風に任せて勢いよく回っていた。育った自宅に程近い平沢漁港は晩秋から鱒（ハタハタ）漁が盛んになる。大漁船から威勢よく水揚げされ、予めセツトされた囲いの中に山と積まれた子待ち鱒（粒が大きいため鱒子と呼ぶ）をその場で買うと数匹でたったの百円、今から六十五年以上昔の事である。今関東地区で売っているお店は少ないが三匹で三百円を超えている。

港からすぐ近くに勤労青少年ホームがあり、併設の斎藤宇一郎記念館（秋田県全体の農業開発に尽力した名主・私の本家跡地）で知り合いの女性職員が最近の市内の情勢を詳しく話してくれた。

その息子斎藤憲三（父の従兄）は大手電子企業TDKの創立者である。そのTDKが不況の煽りで急激な会社再編の動きに、工場周辺の町中が

る前提の一つ、とも言えるのである。何億年か未来、いやもっと近い将来に「地球最後の日」がやって来ても不思議ではないのである。

・現に私たちの足元（地下）からは、日本だけではなく世界で大地震が多発している。この「宇宙船地球号」のなかで、領有権を争うよりも、先のワールドメジャーズ東京マラソンの合言葉「東京がひとつになる日」を振り、「地球がひとつになる日」が来ることを願うのは、無理な注文なのだろうか。

・四月十五日メジャーズの一つボストンマラソンの開催中テロに合い、大事件になった。関係者のみならず今後の競技会の対応が注目される。

(斎藤)



敏感になり、心なしか静かな雰囲気であつた。

これも親戚の地酒屋「飛良泉本舗」の酒蔵を背にした時、一瞬このままこの土地に住んでいたい気分が襲った。（私は今、佐倉人になっている筈）その日ホテルエクセルキクスイに一泊して、翌朝仁賀保駅から酒田・新潟経由で帰途についた。

にかほ市は旗本仁賀保氏が支配した由利郡の、仁賀保町・金浦町・象潟町が五年前に合併した市である。昨年十一月二十五日東京プリンスホテルにて「にかほ市ふるさと会」が開催され、関東各地から出身者が一堂に会した。当然私も出席した。
(平成二十五年二月記す)



あとがき

老若男女を問わず市内外共に学ぶ機会が増えています。私たち寿大生受生も、学びの中に遊びも取り入れ皆で楽しみましょう。

平成二十五年根郷公民館の皆さん（左記）お世話になります。

(敬称略)

- ・館長 飯塚 昇一
- ・学芸員 黒川 公一
- ・主査補 菅原 久志
- ・主任主事 尾形 弥生
- 戸田 さよ子

- ・会長 大曾根 一巳
- ・副会長 斎藤 雄
- ・副会長 福久 伍一
- 各班长・副班长は五月開催時に選出されました。
- 寿だより編集委員会

- 栗尾 義治（十班）
- 佐藤 静江（六班）
- 吉野 強二郎
- 斎藤 雄（兼副会長）
- 編集協力者 一名・他若干名